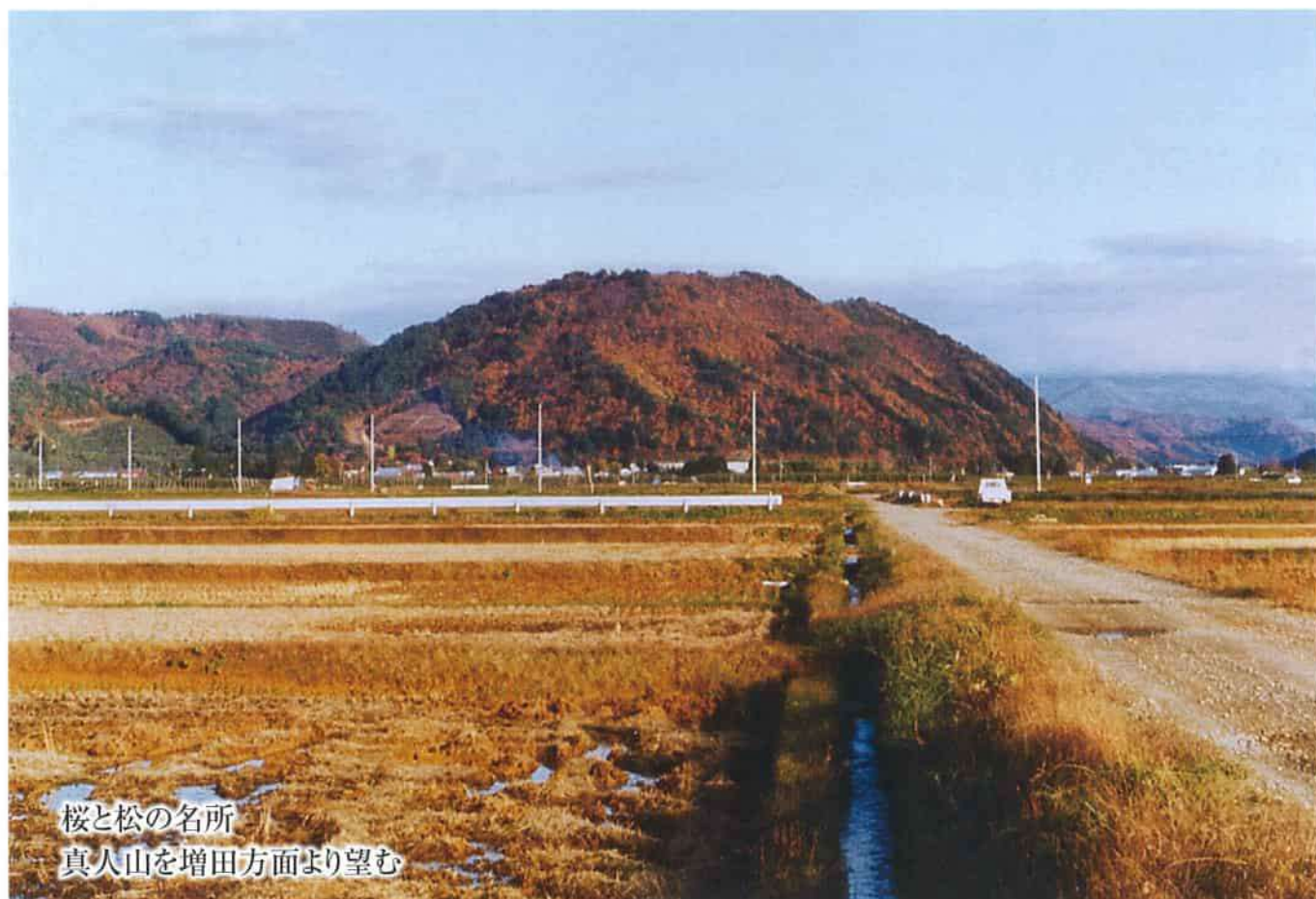


首都圏増田会だより 26

日々遠く、子供の頃の 思い出、

“首都圏増田会”で、甦る。



桜と松の名所
真人山を増田方面より望む

今年もやってきます、地酒、平鹿リンゴ、田舎の納豆汁、芋の子汁を準備して。

田舎の物産を、沢山車に詰めて皆さんが待つ東上野へ来る。

年一度の楽しい集いに、友人、知人、を誘い参加して下さい。

地酒、田舎の味覚に舌鼓、仲間と会い明日への活力にする、増田会へ。

心をこめて、晩秋の一日を、おもてなします。

皆さんで築く首都圏増田会をめざして仲間と、役員一同で待っています。

11月20日(日)首都圏増田会へ。

ふる里は大豪雪

首都圏増田会会長

佐藤 章



節

分の豆、かじりながら原稿を書いています。今年は卯年、年賀状に「跳ねる」「飛ぶ」を目標にした人が多く見られた。すべての面で

「今年こそ」というおもいでである。寅から卯年へ、千支の効用で心機一転新たに挑戦しようとの思いに馳せられる。今年も1月末にふる里会交流

会が横手市で開催され参加し改めて、ふる里は豪雪地帯である事を実感した。こう書く、ふる里の皆さんに叱られそうですが、子供の頃あの寒さと毎日続く鉛色の空、うんざりしたものだ、今年の冬は暦に律儀らしい。雪は1月6日の小寒から降り続き20日の大寒からは異常な程の降雪と成った。例年と比べても桁違いに多いらしい、実家でも連日の雪かき・屋根の雪下ろしで疲労困憊との

事であった。降雪量が1月中で、すでに6メートル・積雪量約2メートルともなればその大変さが良く分かる。「雪を見て楽しむ人の繁華の暖地に生まれる天候を羨まざらんや」(鈴木牧之)。今日は節分・明日は立春・暦に律儀な今年の天候は、陽光は薄紙をはがすように日毎に力強く成ってくる。その先に春が近づいてくる。会員の皆様のご健康を祈念致します。

11月21日、東上野(御徒町)の「ラ・ベルオーラム」にて第25回首都圏増田会総会が開催され、五十嵐横手市長はじめ市関係者、それぞれ各方面からの来賓の方々の臨席のなか、総会の議事・議題は、順次審議され可決、承認されました。また本総会が、役員改選期にあたり、佐藤章会長が引き続き会長として、一段のリーダーシップでこの会を引っ張っていく事になり会長就任の力強い、挨拶をされました。これからが交流会となり、増田会の真骨頂、芋の子汁と納豆汁の登場となるわけで前日から、会員の皆様に増田の味をご馳走しようと泊り込みで芋の子汁を仕込んでくれたのです。この芋の子汁・納豆汁に、ピタリと合う増田の酒を一緒に届けてくれました。この芋の子汁・納豆汁を作ってくれた名人(増田町生活研究会)の六人に拍手、この味この組合わせは、

設立25周年記念総会を盛大に

25周年総会

明日を目指す首都圏増田会



シャンソンを歌う黒木悦子さん



漫画家・矢口高雄さん



交流会の様子



あいさつをする佐藤章会長

こちら・ベルオーラムのシェフたちには出来ない味・出来ない組み合わせ、と見たが如何でしょうか。また、会場入り口の、郷土産品の直売所をのぞいて見ると、総会開始前から大賑わいでメイン舞台のアトラクションに負けない盛況ぶりです。入場時全員に給付した郷土産品の購入金券が呼び水になっていくようです。また今回25回総会にプロのシャンソン歌手(増田町出身)が出演し、秋田民謡をアレンジした歌にビックリし、大変好評でした。芋の子汁・納豆汁・シャンソン歌手など今後の交流会には必ず登場する必須な項目と考えては如何でしょうか。故郷横手・増田では未曾有の大雪に見舞われているニュースが毎日の様に報道され郷土の皆さん苦労されたことと思います。次の26周年の総会に笑顔で集まれることを祈念致します。(大類記)

会員の声

ふるさと探訪2010年に想う

高橋 昇さん
埼玉県在住(小栗山出身)



平成22年10月1日から3日まで行っ
て参りました。首都
圏横手市ふるさと
連絡協議会(八団体)の皆様と一緒に
の3日間とても意義のある時を過
ごす事が出来ました。市長を始め
案内してくれた職員の方々に心よ
り感謝いたします。想えば43年前
十文字駅で見送りを受けた親、兄
弟、親類に手を振り13時間もかか
り着いた上野駅途中で食べた弁当
箱の中に入っていた沢山の餞別と
書いていた封筒、思わず涙で光る
弁当箱、今でもくっきりと脳裏に
浮かびます。又4年間という短い
間でさえも日中は働き夜は日大工
学部(社寺建築科)と今還暦を過ぎ
ても沢山の方々に信頼していただ
き頑張れるのもすべて「ふるさと」
があるからの事、故え、私共にとっ
てふるさととは偉大なもので。そし
て今回増田町のエリアに限らず横

わが町自慢

島田(旧姓山田)カツ子さん
東京在住(本町出身)



手市となり横手市の歴史、及び史
跡、又数々の案内等をしていただ
き心より感謝申し上げます。
初春を迎えると、も
う増田会の開催の
日が待ちどおしく、
楽しみにしております。
25年目お目出とうございま
す。これもひとえに増田会の役員
様のお陰です。秋の気配がする頃、
ふるさとの友達から電話が入って
忙しい日が続きました。私もふる
さと増田を離れてはや50年の月日
が過ぎてしまいました。第1回目
の増田会で幼馴染の石山町長との
再会嬉しかった又幼な友達との再
会も出来て夢の様な様でした。先日テ
レビで放映された、増田町の素晴
らしい蔵など今更ながら昔の我が
町の繁栄が偲ばれてきて、又主人
に故郷自慢をしてしまいました。
増田にお城があった事や1年中四
季折々変化のある景色は他では見

られません。春の若葉・美しい桜・
夏は川や堰で遊び廻り、夜空の流
れ星をみて今の東京では想像も付
きません。お盆の迎え火・送り火・
盆踊りの素晴らしさ、秋には黄金
色、真赤な紅葉、見事です。冬
が、来て吹雪が続くと「コタツ」の
中で昔話を聞き「アヤトリ・トラ
ンプ」等などの晴れた時は素晴
らしい景色でした。ねカマクラ作
り・竹スキー遊びました。伊勢堂
神社の梵天の奉納も見事でした。
「ソヤサーソヤサー」「ポオー
ポオー」と鳴り響くホラ貝の音が
聞こえて来そうです。増田の学校
の校庭も自然に恵まれて素晴らし
い所でした。又、大会に向かって
色々のクラブが猛練習をしていた
頃、楽しい事、辛い事などが楽し
い思い出に変わり懐かしさ思い出さ
れる、東京に故郷を運んでくれる
増田会に感謝しています。芋の子
汁や納豆汁、菊の白和えは格別に
美味しかったです。物産品も色々有難
うございます。最後に増田会の発
展と皆々様のご健康を心からお祈
り申し上げます。

新役員紹介



子供の頃の想い今だ覚めず

森泉(旧姓・片倉)曜子さん
千葉在住(上町出身)

うららかな春のひとつを賑わす満福寺の稚児行列、かがり火で足元を照らされながら回る盆踊り、神主さんが白い御神馬に乗り、練り歩く秋祭り、風物詩に事欠かない増田町。その時々心の在りようまでしっかりと想い起こすことができる。町を離れて40年経つ今でも。主要な行事の華やぎは、七日町が起点で終点の本町へと移っていった。その背景には、洋品店。呉服店、海産物店など様々な商店の賑わいが、祭りのムードを一層引き立てていた。今、これらの商店街が活気をなくしているという。地方ではあたり前の事らしい。都会で暮らしている者からすれ

ば、なんとも寂しいかぎりだ。先日増田町が「蔵の町」として全国へ向けて発信した。これを契機にあっての輝きを取り戻してほしい。「首都圏増田会」の役員の一員として何か出来る事は無いのか模索中である。



役員復帰しました

阿部昭五さん
千葉在住(本町出身)

首都圏増田会創立時(S61年)から(H3)まで6年間役員の一員として活動をしていましたが、会社の仕事の都合でやむなく役員を辞退していましたが、会社も定年となり生活・体力にも余裕ができた時に再役員の声を掛けてもらい故郷増田町の恩返しと思い微力ながらお手伝いをしたいと思います。宜しくお願いします。

増田町の出来事



増田市
増田町
ますだ保育園の屋根の雪下ろし作業を
黙々と進める増田高校野球部員

記録的な大雪の中 除雪ボランティア活動

記 録的な大雪が続いた中、何か手助けができないかとの思いからボランティアによる除雪作業が市内の各地で行われました。1月22日には増田高校の野球部員25人が胸元まで降り積もったままの保育園の雪下ろしを、2月

2日と3日の両日には、雄物川高校の野球部員21人が放課後、雪で埋もれた一人暮らしの高齢者宅の除雪を行いました。このほかにも、横手除雪ボランティアの会や県南NPOセンター、平成高校なども自主的に除雪ボランティアを行っており、市民の心強い助け合いの輪が広がりました。
(市報・平成23年2月15号より)

名物たらいこぎ競争

4 月29日、真人公園さくらまつりの名物行事、たらいこぎ競争が同公園沼を会場に行われ、男女合わせて22人が参加。肌寒い天候のもと、42・195メートル先のゴールを目指しました。スタート直後からバランスを崩し転覆する人や前に進めず苦労する参加者たちに沼の周りを囲んだ観客から、大きな声援が送られていました。
(市報・平成22年5月15号より)



釣りキチ三平の里 体験学習館開館式

増 田町狙半内地区の旧増田東小学校の一部を改修して、農山村体験や野外活動、宿泊ができる農山村体験学習交流施設『釣りキチ三平の里体験学習館』が3月末に

完成し、6月23日に開館式が行われました。式には、この日から2泊3日でセカンドスクールとして市内小学校で初めて同館を利用する朝倉小学校の5年生64人と、狙半内地域センターの代表や関係者などおよそ20人が出席。五十嵐市長が「さまざま



利用第1号となった朝倉小児童と関係者によるテープカット

手打ちそば三平で 大食い大会

6 月20日、増田町狙半内10周年を記念して、そばの大食い大会と山菜や野菜の直売会が行われました。大食い大会は、地元産ソバ粉を使った三平そばを20分間で何枚食べられるかを競争。参加者は制限時間をいみながら各々のペースで食べ進め、見事5・5枚を食べた内藤徳造さんが優勝しました。
(市報・平成22年7月1号より)

第21回横手市増田地域 農業活性化講演会

2 月10日、「若者が農業を盛り上げる」をテーマに、増田地域農業活性化講演会が増田ふれあいプラザで行われ、約300人が参加しました。

はじめに増田高校の農業科学科の生徒が、八木にんにくを使ったソース開発のプロジェクトやりんご栽培への思いを発表。続いて、神奈川県の大沼小学校との食育活動などが認められ、平成22年度地域づくり総務大臣表彰を受けたJA秋田ふるさと青年部が、活動実績を発表しました。

また、大潟村でのコメ作りや農作業の開発などに取り組んでいる「ノギヤルプロジェクト」代表の藤田志穂さんが「若者が食や農業について考えるきっかけ作りを、これからも続けていきたい」と

まな体験ができる最高の環境を楽しく利用してもらい、全国からたくさんの子どもたちが集まり交流してくれることを願いたい」とあいさつし、開館を祝うテープカットが行われました。

式終了後、朝倉小学校の児童たちは、自然豊かな環境のもと、普段の学校生活では体験できない間伐材を使った箸づくりやイワナのつかみ取り、ブナの森観察、炭焼き体験、そば打ち体験などを楽しみました。同館は、子どもたちの主体的な判断や協調性を養う体験の場として四季を通じて利用でき、地域の資源や文化を活用した26の体験メニューを用意。いずれもNPO法人や自治会農家などが指導にあたります。また、平成25年度から全国的に展開される都市農村交流（子ども農山漁村交流プロジェクト）でも、県内外から訪れる児童・生徒などの受け入れ拠点としての利用が期待されています。
(市報・平成22年7月15号より)



写真右上／ソース開発のプロジェクト発表を行う増田高校の農業科学科の生徒
写真右下／活動実績を発表する JA 秋田ふるさと青年部本部・部長の籠谷亨さん
写真左／ノギヤルプロジェクト代表の藤田志穂さん（写真左）がデザインした、ジーンズ生地の農作業着

講演。地域を支える若い世代の熱意が伝わる講演会となりました。
(市報・平成23年3月1号より)



顧問
石山米男 元増田町長
ご逝去

昭和61年の増田会設立当初からこれまで多大なご尽力をいただいた当会顧問の元増田町長石山米男氏（現横手市議会議員）が病氣のため平成23年6月11日ご逝去されました。葬儀は6月14日増田ふれあいプラザ（まんが美術館）で行われ、500名を超える参列者が弔意を表しました。当会からも佐藤章会長、阿部俊吉名誉会長



が参列し、ご遺族の方がたへ哀悼の意とこれまでの貢献に対し感謝の意をお伝えしてまいりました。石山氏は増田町役場職員を経て、昭和61年から平成17年まで5期19年増田町長を務め、当会への物心両面にわたる支援とふるさと増田町の発展のため心血を注がれました。深く感謝申し上げるとともに心からご冥福をお祈り申し上げます。

故石山氏の功績を元増田町区長・高橋誠氏の弔辞よりご紹介いたします

無常の風に花散るごとく、なぜこのようにはかなく、そして急いで旅立たれたのか、本当に悲しくて残念でなりません。今日は町長のもとで総務課長を八年間勤めた関係で、あえて「町長」といわせていただきます。

昨年十二月入院されたとはいえ、必ずやその不屈の精神できつと再起してもらえ、そして一日も早く退院されることを心から祈り、一緒に好きな八木の青二・ニクに味噌をつけてばりばりと食しながら、一献酌み交わす日を楽しみにしていたのに。百万手を尽くされた治療とご家族の昼夜分かたぬご看病もそのかいなく、ついに帰らぬ旅に発たれましたことは、ただ天無情というほかありません。常に義と仁を重んじ、人を思い信を決して裏切らない大きな度量を持ち合わせたことから人望あつたものがありました。一方奥さん思いといえますか、類に似ず恐妻家でありましたし、思いの外照れ屋でした。また、話の端々に家族思いであることを常と感じら

ることができたのはまさに町長のおかげであります。人口一千万人を超える南陽市との相互の交流、そして中国での「友好植物園」の建設、電気の通しない地区への配電設備建設支援などは、町長でなければ為しえることではありませんでした。こうした偉業により中国南陽市からも高い評価をいただき、太い信頼と友好を深めたことはまさに大きな功績であります。このとき町長は今小さな増田が支援することはいつかつきと後の人々の役に立つはずだと確信を持って話されたことは印象深く、先を読む力のすばらしさにすごく驚いたものです。

昭和三十七年に増田町役場に奉職され産業建設課長・企画財政課長など重責を歴任し、持ち前のバイタリティーで町政発展と住民福祉向上に大きく寄与されました。昭和六十四年四十五歳という若さで町長に就任、以来平成十七年までの実に五期十九年という長きにわたり、大きな力で増田町を牽引いただきました。その不撓不屈の精神力と旺盛な責任感、長年培った豊富な経験、剛毅にして闊達なうちにも慈愛に満ちた人柄は、各分野に

たして参りました。農業商工業そして観光の発展のため諸施策を展開するとともに、町制施行百周年事業の一環としてふれあいプラザを平成七年建設、まんが美術館、漫画の持つ夢とロマンを全国に発信し続け、今も大きな人気を博しております。町制施行百五周年の平成十二年には全体的に調和のとれた町の開発が必要であるとして町中心部から、離れた上畑地域にさわらび温泉を建設し、町全体の底上げを図っていただきました。この他特養施設の開設、保育所はじめ小学校の統合や建設、など数多くの実績は放拳にいとまがありません。

こうした大きな実績は町長の先見性としっかりとした実行力のたまものと思っております。町長は随所でことの本質を正しく分析し、大局に立ち卓越した手腕を十分発揮し、ことを推進していただき感謝の念に堪えません。特に国会議員の先生方、国や県などと色々な機関への陳情の際の様々な思い出はたくさんあります。その成果が現在、町の様々な施設や建物となつて多くの皆様に喜ばれご利用いただいております。町長が実施

れました。しかし、仕事に取り込む姿勢は常に厳しいものがあり、私はよく叱られたものでした。

（二）部省略

平成五年故石田東四郎さんが中国南陽市から約半世紀ぶりに、まさに奇跡ともいえる帰町を果たしたのには、各方面への働きかけなど町長の大きな力なくして出来得るものではありませんでした。石田さんが波瀾万丈の人生の最後を穏やかな生活で締めくくる

多くの人脈を築き、様々な実績を積み上げて参りました。就任と同時に首都圏増田会の設立に奔走され、現在二十五周年を迎え、ふるさと支援と充実した会活動を行っております。また、遅れていた社会資本の整備に精魂を傾け、平成四年には、総合体育館を建設、開館以来バスケットのスーパーリーグを継続実施して参りました。全日本バレーボール大会を招致するなど、一流のスポーツを気軽に観戦出来るよう配慮し、底辺拡大に尽力を果

した諸施策は、間違いなく多くの住民に希望と勇気そして安らぎと安心感を与えるものでありました。平成十一年から十五年までは平鹿郡町村会長、平成十五年から十七年までは秋田県町村会長として活躍いただき、それぞれのオピニオンリーダーとして卓見を遺憾なく発揮いただいたところがあります。その他多くの組織の役員を歴任いただいております。特に東北や全国組織の役員として、純達な手腕を遺憾なく発揮され、活躍

いただいたところでもあります。平成十七年の市町村合併、これは、本当に大きな行政課題でありました。普段決して弱みを見せない町長が、自立、合併といった絶対的判斷基準がないなか進むべき道、方向性の最終決断者として大いに悩み苦しんでいる姿をまの当たりにしたとき、首長としての立場の厳しさを痛感したところでもあります。その後、市議員としてしっかりと地域の人々の生の声を市政に届けていただきました。大胆で、決断力に富んでいることから勝負事に強く麻雀、碁を趣味としておりました。酒席ではウィットに富み、談論開発して時の過ぎるを忘れる、楽しい人柄であるため座持が非常にうまく、また楽しいことから来客の皆さんに喜ばれたものでした。町長の覇気ある声にも、その元気な姿にも再び接することが出来ず、まことに暗闇に灯火を失ったようなもので、ただ悲しみと寂しさを感じるばかりです。

増田町の発展はもとより横手市、そして秋田県の発展に尽くされたご功績の数々は千載不朽のものであり、私どもの永遠に忘れぬところです。数々の思い出を申し上げます。

りなく惜別の情はつきませんが、悲しきお別れの式に列し在り日を偲びひたすらご冥福をお祈りいたします。町長、お疲れ様でした。そして安らかに眠りください。又私どもの今後をお守りください。最後に生前のあなたのご功績に改めて衷心より感謝と敬意を表し、お別れの言葉といたします。

平成二十三年六月十四日

高橋 誠

お願い - 連絡 -

事務局より

市町村合併後、市当局からの支援金が大幅に削減されてしまいました。つきましては増田会として、やむをえず次のようにしました。

過去5年間、会費が未納の方

総会の案内及び増田会だよりの郵送を中止することにしました。ただし、総会への参加は構いませんので一人でも多くの方々の参加を期待しています。皆様のご理解の程をお願い申し上げます。

平成21年度首都圏増田会収支報告

平成22.11.21現在

首都圏増田会の平成21年度収支決算がまとまりました。その内容は下記のとおりです。

【収入の部】		※「比較」欄は予算との比較	
項 目	金額(円)	比 較	説 明
前年度繰越金	722,857	0	
年 会 費	410,540	▲89,460	手数料差引後
総 会 費	640,000	▲320,000	80 人
総会ご祝儀等	356,000	106,000	総会祝儀、広告収入
横手市補助金	270,000	0	首都圏増田会補助金
預 金 利 子	160	▲340	
合 計	2,399,557	▲303,800	

【支出の部】		※「比較」欄は予算との比較	
項 目	金額(円)	比 較	説 明
総 会 費	1,108,435	▲191,565	会場料、宴会費用ほか
通 信 費	119,380	19,380	総会案内状ほか
会 議 費	117,695	▲32,305	役員会 3 回
在京ふるさと会	192,000	▲38,000	各ふるさと会会費
慶 弔 費	10,000	▲20,000	佐藤会長お見舞い
事 務 費	16,760	▲13,240	事務消耗品
事業部活動費	10,000	▲60,000	役員研修広報部活動費
振込み手数料	3,150	1,050	銀行経由
広 告 費	50,000	▲30,000	増田の花火協賛金ほか
積 立 金	0	▲300,000	25 周年積立金
雑 費	0	▲411,257	横・平協議会、反省会
合 計	1,627,420	▲1,075,937	

収支差引残金 722,137 円は翌年度へ繰越

第26回首都圏増田会総会

第26回首都圏増田会総会を下記により開催します。今年から運営上手詰まりとなり開催時間が午前11:30に変わります。

■期日 11月20日(日)午前11:30～

■場所 ラ・ベルオーラム(昨年と同じ場所です)
住所 東京都台東区東上野
電話 03-3832-0457

■会費 8,000 円

※参加者全員が着席できるように準備しています。

募集しています

首都圏増田会広報部より

広報部では「会員の声」の原稿を募集しています。400字詰め原稿用紙1枚に、故郷への思いや思い出等を自由に文章をお書きください。

■提出先：広報部長 阿部照子

首都圏増田会総務部より

総会資料に掲載する広告を募集しています。1口(名刺判)3,000円となります。希望される方は伝票の通信欄にその旨をご記入いただき、会費と一緒に納入してください。

会費の納入はお早めに

事務局より

当会の事業・運営費は会員の皆様の会費によって賄われていますが、最近会費の納入が遅れたり、未納となる会員の方が出ています。健全会計維持のためにも、納入はお早めをお願いします。なお、未納の方には次回より案内状、たより等の送付はしないこととします。また、転居された方をご存じの方は増田地域局・地域振興課へお知らせください。(連絡先：秋田県横手市増田町増田字土肥館173番地 / 電話 0182-45-5510)

◆会 費 年額2,000円

◆納入期限 平成23年8月31日

※払込伝票の通信欄は、会員紹介、増田会に対するご意見などを自由に記入ください。